

原油相場高騰

川上 ≡ 全体

原油相場への
影響

● 中東情勢（ホルムズ海峡・レバノン情勢含む）

米国・イランで覚書をめぐり交渉中、イスラエルはレバノンを攻撃。

● 産油国間のバランス

減産（協調減産継続・自主減産縮小）期間にあり、思惑交錯。6月7日に会合。

● 主要国の金融政策・景気動向

インフレ懸念が増し、目先の利上げ時期を模索中。別途、株高は原油高の一因。

● 米国の原油在庫

米国の原油の戦略備蓄は急減中。中東産の代替になるべく、備蓄を切り売り中。

出所：筆者作成 イラスト：PIXTA

中東情勢を主軸とし、上昇圧力と下落圧力が同時発生中。

● イランが支援しているとされるイスラム武装組織



出所：各種資料およびmap chartを用いて筆者作成

2023年10月のイスラエル・ハマスの戦争勃発以降、情勢悪化が進行。

● 中東情勢をめぐる「懸念」と株式市場における「期待」の変化（筆者イメージ）

中東情勢をめぐる
「懸念」

株式市場における
「期待」

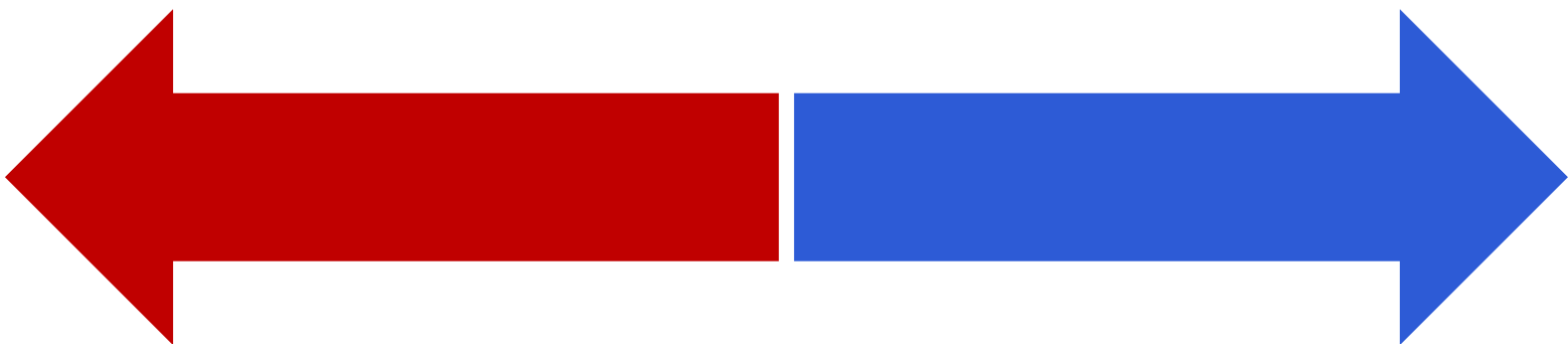
3月



- ・ホルムズ海峡を米イラン双方が封鎖
- ・イスラエルがヒズボラ攻撃を再開
- ・世界の原油・石油製品不足拡大

- ・巨大IPO出現
- ・主要国の株価指数が最高値更新
- ・特定のテーマへの期待が膨張

6月



出所：筆者作成

懸念がもたらす恐怖を、期待がもたらす欲が打ち消そうとしている！？

● OPEC（石油輸出国機構）の動向（2026年6月）

● 協力宣言（DoC ≡ OPECプラス）

OPECと一部の非OPECの協力体制「OPECプラス」は2025年12月に10年目に突入。

● UAEが脱退

1967年にOPECに加盟したUAE（アラブ首長国連邦）が5月に脱退。
同国はホルムズ海峡を経由しない輸出経路を持つ。

● 6月7日（日）の3つの会合

・ 第41回 OPEC・非OPEC閣僚会議（年2回の会合）

2026年12月までの「協調減産」をどうするかを決定。（終了・延長・決定先送り）

・ 第66回 共同閣僚監視委員会（2カ月に1回の会合）

OPEC・非OPEC閣僚会議に方針を勧告する。OPECプラス各国の原油生産量などを監視。

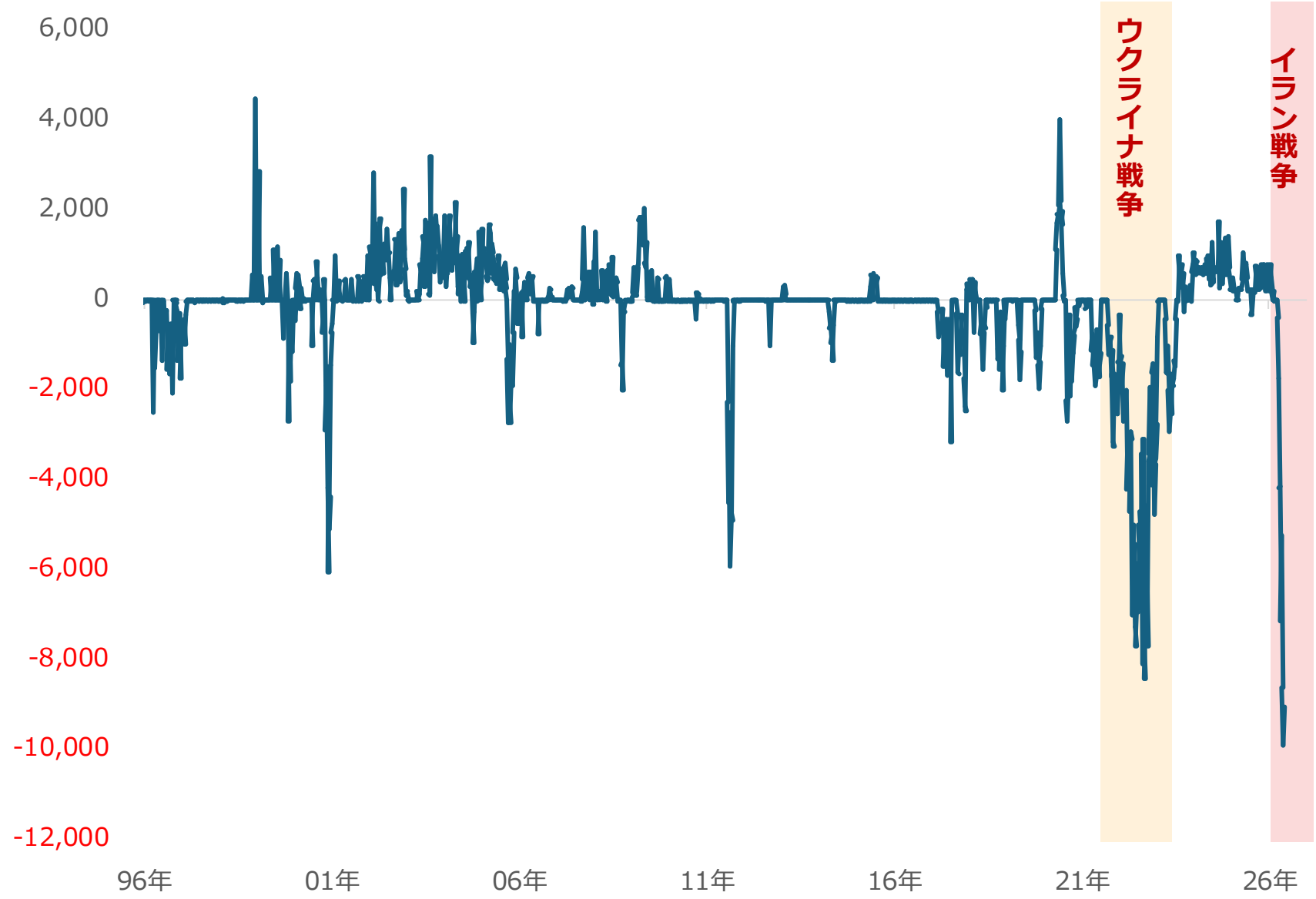
・ 自主減産実施国の会合（1カ月に1回の会合）

2026年中に終える予定の「自主減産」に関する生産動向を決定。（同減産縮小≡増産）

出所：OPECの資料をもとに筆者作成

6月7日（日）が今後の原油相場の行方に大きな影響を与える日になる可能性有

● 米国の原油戦略備蓄 (SPR) の前週比 単位：千バレル



出所：EIA（米エネルギー情報局）のデータより筆者作成

4月以降、米国では記録的な原油戦略備蓄の取り崩しが起きている。

● NY原油先物（期近）日足終値の月間平均 単位：ドル/バレル



出所：Investing.comのデータより筆者作成

世界の原油供給環境が激変した。価格水準の均衡点も激変する可能性がある。